



No.26 2007.6.26 発行

群馬県立高崎高等学校 翠巒体育会報
<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>
 E-mail suiran-taiikukai@apost.plala.or.jp

校長に藤倉氏^{68期}赴任



校長
藤倉
新一

ごあいさつ

はじめまして、この3月まで本校の舵取りをされていた栗原前校長の後任として4月に赴任しました藤倉です。前職は県教育委員会の高校教育課長ということで教育行政に2年ほど携わっていました。昨年秋以降は、富山に端を発した「必修履修科目未履修」の問題が日本国中を駆けめぐりましたが、本県も例外ではなく数校で「未履修」が発覚するとともに本校を始めとする進学校にマスコミ等社会の眼が集中し、学校共々その対応に追われる大変な日々を過ごしました。また、最近では高校野球における特待生制度が話題となり、これまた私立高校を中心として全国的な騒動も発展しております。

これには高野連の考え方が大きく影響しているのですが、この高野連の方針に対して文科大臣までが異見を唱えるという前代未聞の事態になっております。

これら古くて新しい(?)問題や、いじめ・不登校、学力低下等の話題を含めて、現在の学校には今までになく厳しい眼が向けられていると思います。もちろん、それだけでなく学校の運営や経営については地域社会に対して説明責任を果たすべきであります。改めてきちんと襟を正していかなければと感じています。

さてそんな状況の中、卒業以来約40年ぶりに戻った高高です(68期)。風吹きすさぶ校舎や老朽化した講堂・図書館は、木造から鉄筋コンクリートの立派な校舎や、立派なホールを持つ翠巒会館に大きく変貌を遂げましたが、窓の向こうに土手の桜が映る体育館や、其処此処に咲き誇り、その美しさと香りとで我々を和ませてくれる薔薇の花は当時と何も変わっていないようでした。そして何より、文武両道を旨として学習に部活動に全力で取り組む生徒達に接し、やはり此処は「高高」であるとの思いを強く致しました。

現在運動部には在校生徒の約63%が参加(学芸部は約33%)していますが、私達の頃の高高(昭和41~44年)は学芸部に比べ運動部参加率は今ほど高くなかったように思います。会則によれば本会の発足は昭和48年とのこと、まさに運動部活動の隆盛と期を一にするものであります。以来、運動各部に対しまして絶大なご指導とご支援ご協力をいただき、お陰様でこれまで高校総体を始めとする各種大会においても輝かしい戦績を残すことができましたこと、改めて衷心より感謝申し上げます。

今年度もつい先日、県高校総体が開催されました。これまで本校では高校総体に向けての壮行会は行われてこなかったようですが、今回、生徒会長滝澤君の発案で総体前日に放送による壮行会を行い、更に中庭で応援部による力強いエールが行われました。折悪しくあいにくの雨でしたが生徒は全員が中庭に臨む廊下側の窓に群がり、ともに拍手、声援を送ってくれました。まさに総体に向けて学校が一つになったようで、選手達にとっては何よりの激励だったと思います。総合成績は5位と不本意な結

果ではありましたが、選手達はそれぞれの競技のそれぞれの場で、高生全員からの後押しを受け、精一杯やってきてくれたのであろうと思っています。「負けに不思議の負けなし」とは楽天野村監督の言葉であります。それぞれの場で得た教訓を今後に生かしてくれるものと信じています。

一方、「文武」の「文」の方ですが、ご承知の通りSSH(スーパーサイエンスハイスクール:文科省指定事業)、HS(ヒューマンサイエンス:本校独自事業)に取り組むなど、生徒の学習意欲・学習ニーズと進路希望に応えられる教育活動を展開しております。通常の授業(65分)を充実させるとともに土曜補習や学習合宿などを通して、いずれ立ち向かわなければならぬ大学入試に十分対応できる学力を身に付けさせており成果もあげています。生徒たちは文字通り文武にわたって大変中身の濃い日々を送っているわけですが、そこはさすが高高生であります。適切な切り替えと集中をもって立派に文武両道をやり遂げてくれることでしょう。

今年度の高校入試からこれまでの通学区が撤廃され、全県どこからでも本校を志願することが可能となりました。結果として今までになく多くの志願者・受験者を迎えることとなりましたが、このことはこうした本校の文武両面にわたる取り組みが評価されていることの現れと捉えており、今後も、本校伝統の3F精神に基づき骨太の学力を持った人材の育成に取り組んでいかなばと意を新たにしているところであります。

過日、この文を書くに当たってこれまでの会報やHPを拝見させていただきました。いずれの紙面、画面からも同窓諸氏の本校に寄せる熱い思いの迸りを感じさせていただきました。私自身も同じく同窓の一人として皆様方に負けぬ熱い胸に校長としての職を全うする所存ですので、どうぞ今までに倍するご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、翠巒体育会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

高崎高校野球部ユニホームの由来

高崎野球部のユニホームは“早稲田カラー”である。何故と問われる事が多いのでその由来について調べてみた。

明治35年第1期卒業生の木村謙吉は「当時母校は校歌・校旗は勿論なく、運動は体操、剣道、野球ぐらいでした。野球は袴をまくりあげてしたものでした。」(注1)と語っている。特別な着衣(ユニホーム)はなかったと推察される。

同年創刊された校友会誌「群馬」(注2)に対前橋中学校野球試合で9対10で敗れたことが記録されているので野球部が活動していたのは確かである。その続きが明治38年「群馬5号」(注3)に載っている。「…三とせの昔、我が高崎中学が、野球部創立の始めに当たって前橋中学校の校庭に技を争ひ、1点の差を以て敗れてより以来復讐を企つること2回にして成らず、空しく怨の涙を飲み時機を待って今に至る。…」とありこの試合に13対10で勝利し、「…見よ高崎中学の野球部史の1頁に美しく記されたる『復讐し得たり』の金色の文字を。…」と3回目にして勝った喜びを過激に表現している。この様子からするとチームとして統一された着衣があったのではないかとと思われるがこれに関する記述はどこにも見当たらない。

明治40年代から大正10年頃迄野球部活動の中断時期があった。大正11年「校友会誌」34号で猪狩梅三郎(注4)はその理由を記している。「…試合に負けた恨みを擲り合いで報いるやら、延いては、前中と高中が犬猿の間柄になり、何かの時出合い頭に喧嘩をするという始末。…其の中心はいつでも野球団であるので前中でも高中でもその幣に堪えられないので申し合わせたように止めになったのであった。」対抗意識の加熱が原因であった。

この年野球部は復興され、これに尽力したのが盛岡中から赴任した中村孝一である。中村は早大監督の飛田忠順(穂洲)を招いて強化を図り、その厳しい指導で復興4年目で県下大会優勝を果たす

で成長させた。

当時の部員24期卒田中元治は「野球は個人的なわがままは許されない。あくまでもチームワーク。と約40年ほど前に私が高中で生まれて初めて野球のコーチを受けた時、早大野球部飛田監督(高中野球部生みの親、中村部長の早大時代の親友。)からの教訓の一節である。私が5年生になり野球部が復活して3年目、レフトでトップバッター、そして主将の席を汚していた大正13年夏、千葉中学校庭で行われた関東大会(全国中学校優勝野球大会の地区予選)において優勝候補第1に目されていた千葉師範に4対2で逆転勝ちした時はうれしいというより夢のようだった。」(注5)と語っている。

この時、勝利のスコアボードを背に撮った写真がある。帽子、ユニホーム、ストッキングは白、帽章はT、胸のマークはTAKACHU、色は判明しない。

27期卒柴崎金二は「…当時野球部長には早大出身の野球熱心な中村孝一先

放課後の部活動風景(平成19年5月撮影)



中島クリニック

中島 透 (バスケット部 73期)

〒370-0065 高崎市末広町85-1
TEL.027-323-2077

高崎白衣大観音 慈眼院
高野山別格本山

住職 橋爪 良真
(バスケット部 75期)

高崎市石原町2710-1 TEL.027-322-2269
<http://www.takasakikannon.or.jp/>

宮下歯科医院

宮下 英一郎
(バスケット部 74期)

高崎市中紺屋町37 TEL.027-326-6211

生がおられた。歴史担当で綽名を“シモウタン”と尊称されていたが綽名の起源については私は知らない。ユニホームの色調といい、翠巒影の一小節にある“名も高崎の西北に”と力を入れるところ“都の西北早稲田の森に”を連想させて面白い。別に応援歌があるのに応援時に翠巒影が主力をなしたのもうなずける。…(注6) さらに、28期卒佐藤義男は「…一般市民の野球熱が最高に達したのは、昭和2年のチームの時であった。部史に残る名投手片岡、そしてすごいドロップを投げる豪球小島の二人の投手を持ち、守備は遊撃後藤を中心としてノーエラーを誇り、試合前シートノックでは観衆の盛大な拍手がいつも出ていた。また打線はトップ西巻からラスト佐藤まで切れ目なく、当時コーチにこられた飛田穂洲氏が甲子園で準優勝まで行けるチームであるといわれた程である。…」(注7)と語っている。

昭和2年第8回県下中等学校野球大会(全国大会の予選ではない。)優勝時の写真がある。帽子、ユニホームは白、ストッキング上部は海老茶、下部は白。帽章はT、胸のマークはTAKACHU。色は海老茶色(推定)。ここに完全な“早稲田カラー”のユニホームが誕生している。大正11年の野球部復興から昭和の初めの黄金時代の写真資料、部員の証言から中村部長、飛田氏の影響によると結論づけられる。

尚、飛田穂洲氏については25期卒市川清は次のように記述している。「この黄金時代の選手に野球魂と野球技術を身につけてくれたのは、現在75才の高齢を以て嬰鑠として正しい球道を指導している飛田穂洲氏である。プロ野球は絶対見ないで、学生野球だけに精魂を打ち込んで、朝日新聞等に大学・高校

野球の論評を書いている。野球にあまり関心のない人でも人格高潔で水戸魂の一徹な古武士的風貌は知っているであろう。…」(注8)

戦後一時期(昭和22年～30年)帽子、アンダーシャツ、ストッキングが紺や縞模様の時期があったが、昭和31年春学生野球協会結成記念大会の出場を機に、“早稲田カラー”に戻り現在に至っている。

昭和56年春母校ユニホームが甲子園で踊ってから26年が経つ。再度の出場を果たし勝利し校歌斉唱の夢をみる。時節到来の予感がする。(敬称略)

附。因みに本家早大野球部ユニホームについて触れてみよう。創部は明治34年。当時の着衣は白の葛城、平打紐、編上脚絆足袋とある。

明治38年第1回渡米チームのユニホームは上下・白、胸のマークはWASEDA、帽子は白に二本線、ストッキングともに海老茶。海老茶を使用した由来は当時コーチをしてくれたシカゴ大学の旧選手メリー・フィールドがシカゴのカラーであった海老茶をすすめたらしい。又、明治39年の記述「当時のユニホームは米国遠征の時新調したもので、赤味を帯びた霜降ネル、ズボンの前方に真綿を入れ、其れを菱形に縫い、すこぶる重みがあった。帽子には二条の海老茶の筋が入っていた。」ともある。ストッキングは大正5年に白と海老茶になった。大正12年ユニホームは薄クリーム色地に海老茶のマーク。帽章はW、ストッキングは白と海老茶となり現在の原型となった。以後多少の変遷はあったが元にもどって現在に至っている。(注9)

- 注1:「翠巒」創立60周年記念特集号 昭和32年発行
- 注2:「群馬」1号(校友会誌) 明治35年発行
- 注3:「群馬」5号(校友会誌)(前中野球試合復讐記) 明治38年発行
- 注4:「校友会誌」34号(「群馬」改題) 大正11年発行
- 注5,6,7:「長き思い」第53回選抜高校野球大会出場記念誌 田端穰監修 昭和56年発行
- 注8:ふるんてあ「高崎高校野球部沿革史」市川清著 昭和48年発行
- 注9:早稲田大学野球部百年史 平成14年8月発行 早稲田大学野球部栄光の軌跡(別冊週刊ベースボール早春号) 昭和58年3月発行

- 猪狩梅三郎 高中教諭(明治34.2～昭和8.4)
- 中村孝一 高中教諭、野球部長(大正10.9～昭和4.2)
- 市川清 高中・高高教諭、野球部長(昭和17.3～昭和37.12) 群馬県高等学校野球連盟第5代理事長
- 田端穰 高高教諭、野球部長(昭和51.4～平成5.3) 群馬県高等学校野球連盟第12代理事長
- 飛田穂洲^{すいしゅう}(忠順) 明治40年 早稲田大学野球部入部(水戸中) 同42年 主将、二塁手 同43年 現役を引退 専任コーチ 大正8年 初代監督に就任 同14年 監督を辞任 朝日新聞社入社 昭和40年 逝去 享年78才 「日本学生野球の父」と称され、早大野球部の初代監督に就任、以後“飛田精神”、“飛田式猛練習”が早大野球部のバックボーンとなる。

一方常に温情を忘れない指導法は選手の心の中に滲透し、数々の成果となって実った。朝日新聞に社入した年から死去する前年まで約40年間、高校野球、大学野球の評論に健筆をふるった。その長年の学生野球への功勞により昭和32年に紫綬褒章、同36年朝日賞を受賞、同36年その功績を評価され「野球の殿堂」野球体育博物館に掲額された。(早稲田大学野球部百年史)



記
若山 享 野球部(58期)
株式会社竹中組 顧問
高崎高校野球部OB会 副会長
早稲田大学野球部稲門倶楽部 会員

山岳部OB(78期)

税理士 吉井 章一

吉井章一税理士事務所
高崎市上中居町251 TEL 027-328-6701

硬式テニス部OB(91期)

原 寛

カネト水産 つりばり・虹鱈料理・手打ちそば
高崎市倉渕町川浦3900-156 TEL.027-378-3132
ホームページ http://www8.wind.ne.jp/wakaba/

一級建築士事務所・総合建設業・東京ガス登録店・LPガス保安機関
上下水道指定工事店(高崎・前橋・伊勢崎・藤岡・安中・玉村・吉井)

水まわりのリフォーム・メンテナンス

株式会社 スカワ

SUKAWA 代表取締役 須川 光一 (山岳部79期)
高崎市倉賀野町1717 TEL:027-346-1849



KIZUNA 江原 千昭 (62期)

卓球へののめり込み

私が卓球部に入部したのは今から四十七年前の昭和三十五年四月のことである。同じ出身中学の友人と高校に入学したら何か部活動をしようと話し合っていたが、当時の部活動をやっていない中学生の娯楽と言えば町の卓球場で遊んだり時々映画を観る程度のものであった。中でも当時の卓球は、日本が世界に通用する数少ないスポーツの一つであり荻村伊智朗を始めとした世界チャンピオンを輩出し、彼らは少年達の憧れの的でもあった。そこで卓球部に入れば面白い卓球が毎日タダで出来るし尚且つ、都合の良いことに運動部に入ると自転車通学が許可されるという利点もあり、二人共遊び半分の安易な気持ちから入部したことを記憶している。入部してみると新人部員の半数以上が私と同じ出身中学で驚いたが、大半は我々と同じような軽い気持ちで入部した卓球未経験者であった。

さて、入部してみると当初は、走ることやうさぎ跳びと柔軟体操及びラケットでの素振りや先輩の練習の周りでの球拾いが大半であり、毎日卓球ができて楽しいだろうとの考えとは大違いがっかりしたものだ。中学時代の卓球部経験者は、先輩の指名もあり球を打つことも出来たが我々初心者には、球を打つ機会も少なくやむを得ず通常の練習終了

後に下手同士で球を打ったものだ。このままでは面白くないと思い早く追いつき追い越さねばと部活だけは皆勤賞で練習に明け暮れた。一年半程でようやく中学時代の経験者に追いつくとともに卓球の面白さが判り本格的に卓球にのめり込んだ。同級生の中に私と同様卓球にのめり込んだ者がいて二人で毎晩腹の減るのを忘れて練習したものである。

当時の卓球部の練習は現在の翠巒会館の場所にあった講堂で行われていた。講堂のため各種式典・講演会等の本来の目的のための使用時には全面、長椅子が並べられておりそれを片付け卓球台をセットしてから練習したものだ。卓球は、室内競技のため電気さえ点けば何時迄も練習可能なため毎日八時過ぎ迄練習し、帰宅後食事し風呂に入りすぐ寝てしまうという生活を続けていた。通常高高では、卓球部に限らず運動部員は三年生になると受験勉強に入り部活動に出てくる回数も漸減するのが普通であったが、私は卓球が面白くてたまらず結局三年の秋口近くまでそんな高校生活を続けていた。その結果、学業成績は年々右肩下がりにて一時は学年三百六十人中、二百五十番位迄下がり大学進学もかなり厳しい状況になった。さすがにこのままではまずいと本格的に受験勉強に取り組み始めたが、この時期は全員が受験勉強に頑張っているため成績順位もなかなかアップせず苦勞した。

一方、卓球の方はといえば残念ながら大した成績も残せなかったが浪人するわけにもいかず受験勉強に突入せざるを得なかったが、現在に至るまで卓球にのめり込んだことを後悔したことは一度も無い。何故ならば日頃何かとお世話になっている先輩や同輩・後輩諸氏を得られたこと、一つのこと、短期間であれ自分に納得のいくまで精一杯チャレンジしたことやキャプテンとしての経験等は、その後の社会人としての仕事上・生活上に大いに役立っていることを考えれば、悔いが残るところか誠に充実した貴重な三年間であったと思っている。

KIZUNA 根岸 博昭 (68期)

「青春の絆」昭和44年3月高崎高校卒

卓球との出会いは、小学校5年(昭和35年)の時、城南プールの管理棟2階に置いてあった卓球台で遊んだのが最初になります。回転の変化で相手を困惑させるのが面白く、夏休みはプールで泳いだ後、卓球というのが日課になっておりました。

その後、高崎三中(現高松中)に進み、1年の時卓球部にちょっとだけ籍を置いた時期がありました。ただ、その頃の卓球部はろくに玉を打たせてもらえず、素振りや球拾いの毎日でした。不満だらけで、いつやめようか迷っているある日、突然、1級上の先輩に腹筋、腕立て、ダッシュとごこかれしました。私はそれなりにこなしたのですが、同僚があまりの厳しさに吐いてしまい、且つ涙ぐんでる姿を見て、怒り心頭で先輩に「やりすぎだ!」と猛烈に抗議し、大喧嘩をして、その日をもって三中での卓球生活は終わりました。在籍期間は僅か20日程かと思えます。

昭和41年に高高に入学し、さて何のクラブに入ろうか、候補はバレーボール、サッカー、卓球とありましたが、団体競技は高高ではダメ(勝てない)だろうと思い、個人競技の卓球ならチャンスがあるかも、という考えでおりました。

早速、下見でも、と卓球台が置いてあった講堂に出かけたら、ぼったり三中時代の先輩とハチ合わせ。例の大喧嘩のことが頭に浮かび、一瞬躊躇したけど、「おー、卓球部に入れよ!」と声を掛けられて、その場ですんなり入部してしまいました。素直?なもんです。ドツボはまった。とにかく玉とじゃれるのが面白かったのも、昼休み、時々サボれた美術の授業中、日曜日も、暇さえあれば玉を打ってました。丸山団地を登り上がるランニング、洞窟観音の石段もさほど苦にならず、毎日学校に行くのが楽しみでしたね。

イベントの合宿は、夏の盛りで何しろ暑い。練習中は勿論、食事中、補修授業中(机に涎)、夜寝ていても、汗、汗、汗…でした。で、寝る前は大腸菌満載

『祝創部60年優勝目指せ!!』

高崎高校サッカー部OB会

会長 清野 哲雄(74期)

のプールでひと泳ぎ、でした。見るからに怪しいOBの出入りも多く、軽くビビッてましたが、差し入れのスイカは旨かった。入った頃は、新入部員の数も20人以上いましたが、夏の合宿を境に半分以上に淘汰され、最後は8人になりました。

デビュー戦は、大会は忘れましたが、樹徳高校のシード選手でした。あれこれ考え試合に臨みましたが、考えたことは何も出来ず、わずか15分程であっさり完敗。気合とは裏腹に、練習の成果は殆ど出ず。直ぐ学校に戻って練習したい気持ちでいっぱいでした。ただ、同僚の試合も残っていたので気を取り直して応援しました。同僚もそれなりに頑張りましたが、夕方5時半で練習終了義務と夜8時まで練習可能な、この差は如何ともしがいたものがありました。

部として一番盛り上がった試合は、私が2年の時の前高との定期戦でした。勿論、団体戦です。ず〜っと、敗戦続きの流れを何とかい止めたいと、珍しく全員のテンションが高まり、普段にも増して練習に励みました。試合当日は、一般の学生も多数応援に駆けつけ、その大声援を受けながらの試合は、やる気満々。4:6で負けの予想を跳ね返し、見事勝利することができました。同僚も同じ気持ちだったと思うが、自らを誇らしく感じた一日でした。

マラソン大会、翠巒祭、様々な学内競技大会は、当時の青春を回顧する全て楽しい思い出です。特に卓球部での生活は、先輩、同輩、後輩の幅広い人間関係を築く場であり、また、そこでの体験がその後の人生に様々な影響を与えたことを実感しております。

50歳の半ばを越えましたが、卓球はいまだに現役です。これからは、高高には時々顔を出しますので、在校生の皆さんお手柔らかにお願いします。

KIZUNA 佐々木 修一 (75期)
青春に乾杯

「青春に乾杯!」と、今でも仲間内の宴席では発声している。この言葉は私が死ぬまで発声し続けるだろう。高高



↑「東京卓月会・群馬ベテラン会親善交流卓球大会」
↓大会に出場しプレーする佐々木

卓球部の思い出で、私が一番印象に残るのは、合宿のことである。私が親一人子一人の母子家庭の状態だったので、卓球部の大勢の仲間と合宿ができることは、その後の苦しい試練が待ち受けているとは露知らず、その時は無常の喜びを感じていた。合宿は一学期の、もうそろそろ夏休みを迎える頃に始まる。授業が終わって即練習が始まる。夕食後少しの休憩を挟んで、夜の練習が始まる。現役生よりもOBの方々の数が圧倒的に多い。そこで、1年生の我々はOBの方々から多くの試練を受ける。へとへとになって翠嵐会館に戻る。それでもなんとなくウキウキしていて、深夜まで仲間と語り合う。翌朝起きてみると、疲労と寝不足で身体が宙に浮いているようだった。初めての経験だった。疲弊しきった身体で、観音山にランニングに出かける。「高高〜、ファイト!」の掛け声でどういう理由か疲れが薄れる。帰ってからは基礎トレーニング。こんなふうにして、授業にでもんだから、当然居眠りができる。教科書が汗とよだれでベトベトになっていた。この状況が一週間続いた。疲労困憊極まれり。

合宿の最終日は、OB現役で高高杯という卓球大会を催す。顧問の先生が優勝カップを寄贈してくれ、OBの方々は豪華商品を提供してくれる。1年生の時の高高杯で優勝し、上下のトレーニングウェアをもらったことは、今でも鮮明に覚えている。非常にうれしかった。

合宿以外にもOBの方々が練習を見に来てくれ、鍛えられたおかげで、その



後高卓球部の語り草となる出来事が二つ出来た。一つは、2年生の9月の大会で、同期の杉浦が第一シード、私が第二シードと高高が第一シード第二シードを占めた事だ。後にも先にもこれが最初で最後だろうと言われている珍事だ。二つ目は、2年生の新人戦で私が準優勝した事だ。こちらの方は、早く後輩諸君に優勝してもらって、新たな語り草を造ってもらいたい。

番外編の語り草もある。練習熱心な我々は、足繁く高崎女子高校に練習に行ったものだ。高崎女子高校からもよく練習に来てもらった。そんな関係で、今でも年に一度は当時の高崎女子高校のメンバーと一献を傾けている。おそらくその事も我々の年代だけだろう。幸いにも、私は現在も卓球を続けられている。年間に35〜40回、大会に参加する。生涯現役であり続けたいと思う。その礎を築いてくれた高高卓球部に深く感謝したい。高高卓球部に乾杯。そして青春に乾杯。

剣道73期 堀口 順

夜10:00まで
みな様の食卓を
ごまします

堀田屋

鮮魚
仕出し
お弁当
酒

営業時間 AM9:00~PM10:00
高崎市剣道町232/群馬八幡駅そば

foods hill

HORIYAMA
堀田屋

TEL(027)343-3223

カーエレクトロニクス グッズ&サービス

群馬電装株式会社

本部・サービス部：高崎市江木町117
TEL.027-323-3622 FAX.027-327-6627
http://www.gunmadenso.co.jp/

代表取締役社長 川口 昌啓 (剣道部74期)

高々剣友会

会長 笠井 秀昭
(剣道部56期)

高崎市上並榎町5-5
TEL 027-362-1019

18 專業報告

- 4月11日
● 第1回編集会議
- 5月8日
● 座談会
- 6月1日
● 関東大会出場の部へ祝金
- 6月6日
● 第2回編集会議
- 6月13日
● 第1回役員会議・理事会議／監査役会
- 6月27日
● 総会・懇親会／翠巒体育会25号発行
- 7月7日
● 全国大会出場の部へ祝金
- 8月18日
● ゴルフ大会役員会議
- 8月27日
● 第16回ゴルフ大会
- 9月15日
● 高校OB対抗ゴルフ大会(出場者慰労)
- 10月4日
● 第2回役員会議
- 11月8日
● 高崎高校マラソン大会 優秀者表彰
- 11月8日
● 関東高校駅伝出場 祝金
- 11月18日
● ソフトボール大会、親睦会
- 1月12日
● 関東大会・インターハイ出場 祝金
- 1月24日
● 関東大会出場 祝金
- 2月2日
● 栗原校長文部科学大臣賞受賞祝式典
- 3月1日
● 高崎高校卒業式
- 3月22日
● 第3回役員会議・理事会議

第31回定期総会・懇親会 陸上競技部／谷 一行(70期)

平成18年6月27日、高崎ビューホテルにて第31回定期総会が開催されました。高橋浩生会長挨拶の後、議長に高橋会長が選出され、平成17年度事業報告、会計報告、監査報告が満場一致で承認されました。続いて平成18年度事業案、予算案も満場一致で承認されました。以上の議事に引き続き、第14回高高同窓会ゴルフコンペ(平成19年5月13日)－70期担当一、第105回高中・高高同窓会(平成19年1月27日)－76期担当一の紹介の後、国峰善次郎顧問の挨拶にて閉会いたしました。定期総会終了後、場所を隣に移し懇親会が開催されました。栗原健高崎高校校長の挨拶に続いて、原浩一郎同窓会会長挨拶、田口恵一PTA会長の祝辞、岩田武雄顧問の乾杯、そして高高顧問紹介・総体結果報告がなされ、各部記念撮影が和やかなうちにとり行われました。そして全員で翠巒斉唱、山口正敏顧問の御礼挨拶、中締めで懇親会は終了しました。



第16回翠巒体育会ゴルフ大会(平成18年8月27日・ローズベイク.C.)



ゴルフ大会 団体優勝 柔道部 柔道部／庭田登志男(68期)

残暑の中、我が柔道部は藤崎 裕(54期)沼賀 勝平(55期)小笠原 庸介(55期)小野敦美(57期)庭田 登志男(68期)以上5名、少数精鋭?で出場いたしました。昨年この誌上にて3連覇を狙うと半分は冗談、半分は本気で書きました。まさか連覇出来ると思っていないので、かえって気楽にプレーしたのが幸いしたのかもしれない。おまけに今年もシニアベスグロを藤崎さんが、シニアグロス2位を沼賀さんが獲得いたしました。頭がさがる思いです。このお二方にあと10年ぐらい活躍していただければ、まだまだ連覇できると思います。柔道部として悩みはひとつです。若手に出場していただきたい。これを読みましたら連絡してください。

最後に各部の皆様のご健闘お祈り申し上げます。



第16回翠巒体育会ゴルフ大会
(平成18年8月27日・ローズベイク.C.)
↑左から、優勝の庭田さん、2位の新谷さん
←団体優勝の柔道部

バレーボール部OB(79期)

ケンマ商会

代表 猿谷 稔

〒379-2166 前橋市野中町397-2
TEL・FAX 027-263-1198

バレーボール部OB(82期)

特級(一般)種別認定代理店

有限会社 大沼保険事務所

取締役 岩丸 高明

高崎市箕郷町東明屋481-11 TEL.027-371-5914

野球部(OB会長・62期)

代表取締役社長 川手 義昭

群馬小型運送株式会社

高崎市飯塚町1068 TEL 027-362-1000

株式会社 エイテック

高崎市中泉町811 TEL 027-372-8111

ゴルフ大会 個人優勝

柔道部／庭田 登志男(68期)

私は68期柔道部 庭田 登志男です。この度第16回翠巒体育会ゴルフ大会にて個人優勝させていただきました。記憶ではこの大会に、13回ほど出場しておりますが優勝にはかすりもしませんでした。団体戦が柔道部として3連覇を狙っておりましたので、グロスのスコアばかりが、気にかかっておりました。貢献したくて、70台が目標でしたが、80回打ってしまいました。ダボを打ったり、バーディがきたり出入りの激しいことが、新ペリには幸いしたのだと思います。足を引っ張ったかと少し気落ちしていたところ、柔道部が優勝と聞き、さらに個人も優勝と正に盆と正月と一緒に来た気持ちです。今後は、腕の上達は期待できませんので、運を引き込む気を鍛錬しようと思います。そうすれば、2回目も万が一有るかもしれません。最後に、ここ数年若いOBの皆様が、大分増えて来ております。お手伝いさせて頂いていた幹事の一人として大変うれしく感じております。この会が益々盛況で、いつまでも続きますよう御祈念申し上げお礼の言葉とさせていただきます。

ソフトボール大会&懇親会

野球部／赤澤正喜(84期)

私は、今回で、翠巒体育会ソフトボール大会の参加は二回目になります。卒業してからは、学校の方にも、ほとんど顔を出さなくなりました。たまには後輩達の練習などを見学しに来たりすればよいのでしょうか、このソフトボール大会以外には、ほとんど来ないというのが現実です。そのためか、久しぶりに、学校のグラウンドに戻ってくると、現役当時のことが思い起こされて、すごく懐かしい感じがしました。さて、今回のソフトボール大会ですが出席者を全員、ゲームに出そうということで、フィールド上に、9人以上の野手を配置するという特別ルールで行われました。ヒットだと思った当たりがアウトになってしまうという前代未聞のソフトボールになってしまいました。しかし、点数が入りづらくなり、試合自体は締まったものになって、あれはあれで面白いものになったと思います。何よりも、皆、楽しんでプレーしているのが一番だと思いました。最後に、大勢のOBの人達に参加してほしいと思います。高高的グラウンドで待っています。気軽に参加してください。



関東大会出場の部(バレーボール部/ソフトテニス部/テニス部/柔道部/陸上競技部)への祝金を高橋会長から栗原校長へ贈呈(平成18年6月1日・高崎高校)



全国大会出場の部(柔道部/ソフトテニス部)への祝金を高橋会長から栗原校長へ贈呈(平成18年7月7日・高崎高校)

●団体戦

順位	運動部名	合計
1	柔道部	318
2	卓球部	328
3	ラグビー部	330
4	応援部	332
5	山岳部	345

●ネット個人戦

順位		アウト	イン	グロス	HCP	ネット
1	庭田登志男(柔)	40	40	80	9.6	70.4
2	新谷恭一(水)	44	41	85	14.4	70.6
3	竹内 功(野)	50	43	93	21.6	71.4

●グロス個人戦

順位	氏名/運動部名	アウト	イン	グロス
1	小野里篤雄(山岳)	37	37	74
2	大田部功(ラグビー)	41	33	74
3	脇田智晴(応援)	39	36	75

●グロス個人戦(シニア)

順位	氏名/運動部名	アウト	イン	グロス
1	藤崎 裕(柔道)	37	37	74
2	沼賀勝平(柔道)	39	37	76
3	松本社次朗(卓球)	40	38	78



高崎高校マラソン大会 優秀者表彰

ソフトボール大会(平成18年11月18日・高崎高校野球グラウンド)



創業明治11年
総合建設業・一級建築士事務所
製材・プレカット・アスウッド

ISO-9001
認証取得

株式会社 研屋

常務取締役 清水 正郎(野球部・75期)

本社/高崎市飯塚町805 TEL 027-361-5095

野球部OB **ハワイウォーター**

小林 均(77期)

有限会社 小金

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町1614
TEL 027-325-4411(代) FAX027-325-4445

山岳部OB(84期)

代表社員・税理士 真下 哲夫

税理士法人 真下経営

高崎市倉賀野町1713 TEL 027-346-1463

高崎高校PTA会長

水泳部／永尾俊弘(70期)

水泳部 70 期の永尾俊弘です。翠巒体育会では、長年水泳部代表として活動しておりました。縁あって、本年は高崎高校 PTA 会長をすることとなりました。なにかと至らない点も多いかと思いますが、何か問題が起きたときは、翠巒体育会の関係者として、皆様のご助力・ご協力が得られるものと期待しております。

先日おこなわれた高崎高等学校創立 110 周年記念祝賀会で、最近 10 年間の PTA 会長の表彰がありました。そのとき驚いたのですが、その顔ぶれをみると、平成 16 年度堀口 順(剣道部 73 期)、平成 18 年度田口恵一(軟庭部 74 期)と近年たて続きに翠巒体育会関係者が高崎高校 PTA 会長を勤めました。さらに本年度は、吉井章一(山岳部 78 期)が本部役員として修行中です(来期の PTA 副会長予定)。翠巒体育会の顧問でもある国峯善次郎先輩(サッカー部 50 期)が、常々「同窓会でもなんでも運動部 OB が頑張らなければ、その会は活発にならない」とお話をなさっております。近年、翠巒体育会関係者が高崎高校 PTA 会長を勤めるといふ傾向は、「高崎高校 PTA も、もっと高々のために頑張れ」という天命なのかもしれません。そういった思いのもとで、この 1 年間一生懸命に頑張りたいと決意しております。

運動部関係の皆様にはお叱りを受けるかもしれませんが、本年度より高崎高校にエアコンディショナー(以下エアコン)が導入されることが決定しました。近年の地球温暖化の影響か、あるいはコンクリート校舎のためか、一部の教室では日中 40 度を超える日もあるようです。“高々生は質実剛健であれ”という校風からは問題ではありますが、教育環境を整備するという考えより PTA として、エアコンの早期導入を切に県教育委員会にお願いしております。このほど県下 5 高校に県教育委員会よりやっと認可が下り、PTA として今夏のエアコン設置をめざし努力しております。なお、県教育委員会よりエアコン設置の付帯条件として、PTA が様々な機会を捉えて、現在世界的問題となっている“CO₂の削減”問題に、積極的かつ継続的に取り組むことを指示されています。そのため、PTA は会長以下“CO₂の削減”のため、公共交通機関の利用・エアコンの設定温度を 28℃ とするため薄着の励行等を訴える運動をはじめました。翠巒体育会の皆様も、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願い致します。
群馬銀行 高崎栄町支店 普通預金 0783238
スライクイカイ カイセイ ヨシシヨウイチ
翠巒体育会 会計 吉井章一

翠巒体育会収支報告

平成 18 年度 翠巒体育会収支計算書

自平成 18 年 4 月 1 日 至平成 19 年 3 月 31 日

科 目	金 額	摘 要
年 会 費 収 入	350,000	14 部
同 窓 会 補 助 金	300,000	高崎高校同窓会
広 告 費 収 入	210,000	14 部
親 睦 会 収 入	220,000	H18. 8. 27
ゴルフ大会収入	258,800	H18. 8. 27 ローズベイクントリークラブ
ソフトボール大会収入	113,000	H18.11.18 高崎高校校庭
雑 収 入	177,000	祝金、会議個人負担
受 取 利 息	647	群馬銀行
(当期収入合計)	(1,629,447)	
前期繰越収支差額	863,750	
収入の部合計	2,493,197	
総 会 ・ 親 睦 会 費	348,466	H18.6.27 高崎ビューホテル
現 役 補 助 金	137,640	関東大会、インターハイ等 出場の運動部、マラソン大会
会 報 発 行 費	526,305	「翠巒体育」第 25 号
ゴルフコンペ費	223,570	H18. 8. 27 ローズベイクントリークラブ
ソフトボール大会費	103,900	H18.11.18 小紋
慶 弔 見 舞 金	55,500	
事務用品・通信費	31,460	
会 議 運 営 費	263,853	編集会費、役員会議等
銀行振込手数料	840	群馬銀行
(当期支出合計)	(1,691,534)	
特別会計拠出金	0	特別会計への拠出金
支出の部合計	1,691,534	
(収支差額)	△(62,087)	(当期収入合計) －(当期支出合計)
次期繰越収支差額	801,663	収入の部合計－支出の部合計

財産目録 平成 19 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額	摘 要
資 産 の 部		
現 金	0	現金手許有高
預 金	801,663	群馬銀行高崎栄町 普通預金(口座#0783238)一般会計分
正 味 財 産	801,663	

特別会計 平成 19 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額	摘 要
資 産 の 部		
普 通 預 金	500,000	群馬銀行高崎西 普通預金(口座#0593363)特別会計分
特 別 会 計 財 産	500,000	



中高年者のスポーツ参加のための
メデイカルチェック
VOL.8

スポーツと頭部外傷

75 期卒業の吉原です。高校時代は柔道部に所属しておりました。

現在は高崎市中泉町でクリニックを開業し、脳神経外科疾患を中心に診療しています。

スポーツには怪我が付き物です。特に頭は怪我を負いやすい部位で、場合によっては生命に危険が及ぶこともあります。

今回は一般的な頭部外傷について解説し、その中で私が経験したスポーツ事故症例を提示したいと思います。



医療法人順成会
吉原クリニック
院長
吉原 成哲
柔道部(75 期)

診療時間 9:00～12:30 15:00～18:30 土曜日 17:00
休 診 日 木曜、日曜、祝日

〒370-3524 群馬県高崎市中泉町 649-1
TEL(027)360-6600/FAX(027)360-6610
E-mail: yoshihar@olive.ocn.ne.jp

御宴会、慶弔のお席、同窓会、PTA、
趣味のお集まり等に…。

刺身魚仲

取締役社長 羽鳥修司(卓球部・63 期)
高崎市九蔵町 17 TEL 027-322-2428
FAX 027-326-7070

株式会社 **システムハウス**

代表取締役 **堤 康高**(卓球部 71 期)

群馬県高崎市栄町 15-9 きむらビル II 4-B
TEL. 027-327-8451 FAX. 027-327-8480
URL http://www.sysh.jp/

株式会社 **大陸不動産**

代表取締役 **山口 正敏**
(卓球部・58 期)

高崎市宮元町 108 番地 TEL.027-322-4031

脳の解剖学的特徴

頭部外傷を理解するにはまず脳の解剖学的特徴を知る必要があります。脳は外側より、頭皮、頭蓋骨、3層の膜（硬膜、くも膜、軟膜）により包まれています。くも膜の下には脳脊髄液が存在し、脳は水の中に浮いている状態で保護されています。丁度スーパーで売っている豆腐のパックを思いうかべて下さい。豆腐が崩れないように上手く考えられています。実際の脳は豆腐より少し固めですが、感触は似ています。このように脆い脳は幾重にも守られており、少しくらい頭をぶつけても普通は大丈夫です。誰でも頭をぶつけた経験はあると思いますが、無事で居られたのはこのためです。一般的にはスポーツの最中に起こる頭部外傷は、こぶができる程度の軽症がほとんどです。しかし不運にも脳の保護機能を越えた強い外力が及んだ場合、重症化することがあります。

頭部外傷の種類

(I) 頭皮損傷

これは一番経験することが多い頭の怪我です。頭皮の擦り傷、切り傷、こぶ等が含まれます。放置していても自然治癒することがほとんどですが、稀に多量の出血が見られることがあります。これは頭皮には血管が豊富に分布しているため、慌てないで出血している部位を確認し、しっかりと圧迫して下さい。ほとんどの場合、数分で止血できます。縫合処置が必要になることもあります。適切な治療を受ければ1週間程で治癒します。

(II) 頭蓋骨損傷

線状骨折と陥没骨折に分類されます。

(1) 線状骨折

線状骨折はかなり強い外力が加えられた時におきますが、単純な線状骨折のみ場合は治療の必要はありません。手や足の骨折では動かないように固定が必要になりますが、頭蓋骨は元々動かないので固定の必要がないのです。骨折には後で詳述しますが、脳挫傷、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫などの頭蓋内損傷を伴う場合がよくあります。このような

場合は重症化するので注意が必要です。

頭蓋骨の厚み、すなわち強度は一様ではなく側頭骨（耳の上あたり）はかなり薄く、骨折しやすい場所です。そのためボクシングでは側頭部へのパンチを禁止しています。選手の危険を考えると当然のルールでしょう。また野球のバッターが受けるデッドボールも側頭部が最も危険です。今から20年程前の事ですが、後楽園球場で阪急のある有名選手が、側頭部にデッドボールを受け、私が勤務していた順天堂大学病院へ入院してきました。もちろんヘルメットをかぶっていましたが、ヘルメットは割れてしまい側頭部に脳挫傷を伴っていました。幸い後遺症もなく退院して現役復帰し、最終的には巨人に移籍して活躍しました。しかし一歩間違えば選手生命どころか半身麻痺が残るかもしれない危険な状態でした。

(2) 陥没骨折

乳幼児に多く、別名ピンポンボール型骨折と呼ばれています。乳幼児の頭蓋骨は薄くて弱いので、少しの外力でまるでピンポンボールが陥没するように骨折します。軽度の陥没では治療の必要はありませんが、硬膜の損傷や脳挫傷を合併した場合は手術で整復する必要があります。放置すると将来“てんかん発作”を起す危険性があるので注意が必要です。

(III) 頭蓋内損傷

脳実質に影響を及ぼし、後遺症を残したり、生命の危険を伴ったりする場合があります。

(1) 脳震盪

頭蓋内損傷の中で最も軽症で、スポーツ外傷でもよく見られます。軽度の意識障害を認めますが、受傷後6時間以内には回復し、その他の神経学的異常症状を示さないと定義されています。一過性の健忘症も良く見られる意識障害の一種です。受傷直後からその後数時間の記憶が脳に残らず、空白の時間となってしまいます。意識障害と言っても“うとうと”したり“異常行動”をおこしているわけではないので、なかなか周囲の人も異常に気付いてくれません。私自身も柔道の試合中に、頭を

強打し一過性の健忘症をおこした経験があります。頭を打って頭痛がしていたのは覚えていましたが、その後の試合の内容はまったく覚えていませんでした。試合を見ていた友人に聞いた話では、私はいつもとまったく変わらない様子で試合をしていたそうです。しかし『俺はなんでここにいるの?』とか『今なにしてたっけ?』とか、同じことを何度もくり返し聞いていたそうです。周囲の人は初めは、私がふざけていると思ったそうですが、冗談ではなく、徐々に異常に気付いたそうです。約半日間の記憶は、私の頭にはまったく残りませんでしたが、その後は元に戻りました。このように一度や二度の脳震盪では特に問題になることはありません。しかし、プロボクサーのように何度も何度もパンチをあびて脳震盪をくり返した場合には、後に重大な問題となる事があります。皆さんも耳にしたことがあると思いますが、パンチドランカーという状態になることがあります。パンチドランカーとは頭部の外傷をくり返すことにより、脳へのダメージが蓄積されて生じる高次脳機能障害のことです。認知障害や人格障害が少しずつ進行し、最終的には廃人状態になります。サッカーのヘディングをやりすぎても、同じような状態になることがあるので注意が必要です。特に小学生のような小さい子供には、ヘディングの練習はひかえさせたほうが良いと思います。

(2) 脳挫傷

比較強い外傷で、脳実質に“キズ”ができて出血をおこします。受傷直後より意識障害が6時間以上続き、神経学的異常所見を伴うこともあります。外力の強さによって出血の程度も異なり、出血が局所に局限している場合から、広範囲に広がっている場合まで色々あります。加わった外力の直下におこる脳挫傷を直撃損傷と呼んでいます。一方、直撃部の対角線上の反対側脳部分でも脳挫傷を生じることがあり、これを対側損傷と呼んでいます。脳の解剖学的特徴により、前頭部打撲では約半数に直撃損傷が起り、残り半数が直撃と対側損傷の両方をうけます。後頭部打撲では直撃損傷は稀で、ほとんどが対側損傷です。結果として脳挫傷は、

硬式テニス部OB(84期)

山口正仁

オーダーメイドの生命保険をお届けしています!
ブルデンシャル生命保険株式会社 町田支社
TEL 042-710-2471 携帯090-9309-9492

硬式テニス部OB(83期)

長谷川酒店

焼酎・ワインetc.各種取り揃えております。
長谷川 泰三
高崎市栄町20-1 TEL 027-323-2505

バレーボール部OB(78期)

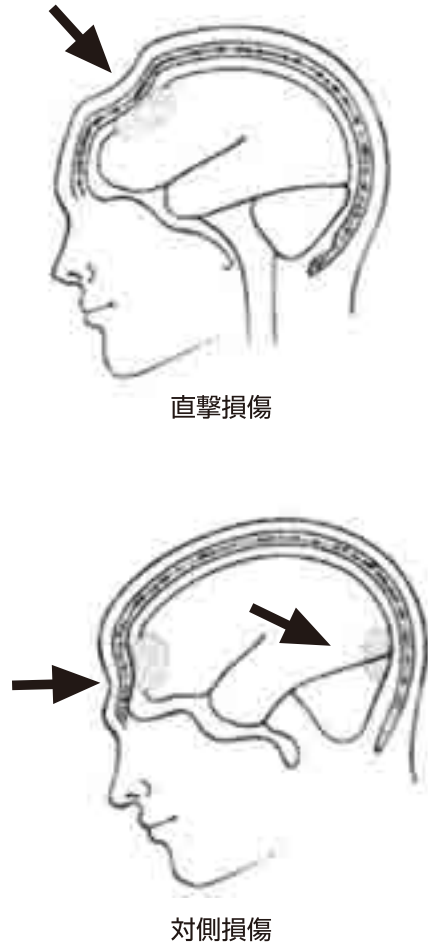
税理士 高橋 浩生

水泳部OB(89期)

白井 浩一

高橋浩生税理士事務所
〒370-0072 高崎市大八木町3002番地10
TEL 027-363-6303 FAX 027-363-6302

前頭葉に圧倒的に多く見られます。



直撃損傷

対側損傷

脳挫傷による出血は、時間をかけて徐々に増大するのが普通です。このため受傷直後のCTでは異常なくても、翌日再検査をすると、出血していることがよくあるので注意が必要です。出血の増大に伴い、意識障害も悪化することがほとんどです。このように脳挫傷の場合、後で症状が悪化する事が多いので、医療訴訟等で時々問題となります。軽症と思われても24時間は安心できないので、注意深く見守る必要があります。

軽症の脳挫傷は、後遺症を残さず治癒します。しかし軽症の場合でも、脳に傷跡として癍痕が残ります。後にこの癍痕が原因となって、“てんかん発作”を起すことがあるので、最低3年間は抗けいれん剤の内服が必要です。また重症の場合は寝たきりになったり、命を落とすこともあります。

中高年者のスポーツ参加のための
メディカルチェック スポーツと頭部外傷

(3) 急性硬膜外血腫

頭蓋骨と、脳を包んで保護している硬膜の間に、出血を起します。ほとんどの例で頭蓋骨骨折を伴っています。このため硬膜上を走行している血管（主に中硬膜動脈）が傷付き、断裂して出血を起します。動脈性の出血が多いため、症状は比較的急速に進行し、頭痛、不穏、嘔吐、錯乱、反応低下、けいれん発作などがみられます。出血量が多くなると脳への圧迫が強くなり、瞳孔不同（片方の瞳孔が開いて大きくなる）、手足の麻痺が出現します。緊急手術で血腫を除去し、出血した血管を止血する必要があります。手術が遅れると、両方の瞳孔が散大して、呼吸障害を認めるようになります。すなわちこれが脳ヘルニアの症状で、ここまで進行すると、生命的にも危険な状態になります。以上は典型的な急性硬膜下血腫の経過ですが、10～15%ほどの例で、症状がでるまで少し時間がかかる場合があります。このタイプは出血のスピードが比較的遅く、ある一定の血腫量になるまでの間、意識が正常に保たれます。専門的には“意識清明期”と呼んでおり、受傷後数分間の短時間のものから、長くと2～3日間症状が出ないことがあります。“柔道やラグビーの練習中、頭を打って一時的に意識障害をみたが、その後回復、練習を終え家に帰り、疲れたからといって食事もとらず休んだ学生が、翌朝起きてこないのを見に行くと死んでいた。”というのがこれに相当します。したがって、一時的でも意識障害を伴うような比較的強い頭部外傷を受けた場合は、すみやかに専門医の診察を受けてください。最低でも24時間は意識レベルの低下に注意する必要があります。

私の経験の中で、ゴルフをしていて急性硬膜外血腫になった患者さんがいます。この人は木の下で自分のボールをさがしていた所、ドライバーショットを打ち込まれ、ボールがダイレクトに側頭部へぶつかりました。ただちに救急車で来院し、緊急手術を行ったため後遺症もなく退院しましたが、もう少し来院が遅れていたなら片麻痺

が残った可能性があります。

余談になりますが、ゴルフをしていて頭にボールがあたった、という患者さんを時々拝見します。ゴルフをする時の危険予防として、ドライバーショットをする時は充分前の組との距離を確認し、打つ人より前方には決して立たないようにするべきだと思います。これはゴルファーの常識ですが、自分のプレーに熱中し、この常識を守れない人を時々見かけます。シャンクしたボールが、頭に当たったという例もありますので、自己防衛という観点からも注意したいものです。

(4) 急性硬膜下血腫

一般的に外傷の程度は急性硬膜外血腫の場合より強く、重症になります。しかし頭蓋骨骨折はむしろ伴わないことが多いです。脳の表面を走行している血管が断裂して出血し、脳実質の損傷も合併しているため、直後より意識障害を認めます。脳がむくみ（脳浮腫）、脳ヘルニアを起しやすいので、死亡率70%と予後は不良です。急性硬膜下血腫は、交通事故や落下事故により起こることがほとんどで、スポーツ外傷では稀です。

おわりに

脳細胞の数は生まれた時が一番多く、年を取るにつれて徐々に減少していきます。脳を鍛えることにより神経細胞間のネットワークは増えますが、脳細胞の数は決して増えることはありません。頭部外傷により、その都度多数の脳細胞が失われていきます。パンチドランカーとはならないまでも、年をとってボケが早くくるかも知れません。中高年以上の方はすでに脳細胞はかなり減少しているの、頭部外傷を受けないように、充分注意して頂きたいと思います。

翠巒体育会
ホームページ

<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>

翠巒体育会の活動にご意見・ご要望などがありましたら下記メールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

E-mail suiran-taiikukai@apost.plala.or.jp

秋山土地開発株式会社

代表取締役 秋山 賢治
(応援部OB会 会長 74期)

藤岡市中大塚223番地1 TEL.0274 (24) 3911

**土地とHOUSE
建物のLAND
得情報**

広告掲載のお申込・お問い合わせは！ (81期 応援・藤井)
株式会社スパン TEL 027・310・2080

RISE® ライズ総合保険
損害保険・生命保険はお任せ下さい!

富田 和弘
(応援部 85期)

〒370-0044 群馬県高崎市岩押町25-18 TEL 027-322-2364

OB 各運動部OB会の近況報告



柔道部

鳥居 吉二
(73期 顧問)

まずは、OB会長である関口茂樹前鬼石町長がこの度の選挙により県議会議員となりました。OB会の一員として関口先輩のご活躍を心よりご祈念申し上げます。

さて、今年の新年総会には、今井孝造先生が復調され、ご出席されました。先生の近況を語る元気なご挨拶に、会員一同安心した次第であります。「熊」こと今井先生には無理をなさらず、健康第一にして、願わくば引き続き大所高所から教え子たちに厳しくまた優しく導いてくださることを望んでおります。

新年総会に先立ち、3日の午後高々道場において現役OB合同の初稽古が行われました。今年は遠来よりしばらくぶりのOBが駆けつけてくれました。秋田大学医学部で教鞭を執る鈴木良地(85期)さんです。その稽古ぶりは力強く、平素練習に励んでおられるものと思いきや、前回高々に来たとき以来約10年ぶりで柔道着に腕を通したとのこと。ただ、体を鍛えることは好きでトレーニングは積んでいるとのことでした。さすが、その筋骨隆々たる体躯には目を見張りました。

鈴木さんの柔道好きは父親譲りとのこと。その父親とは現群馬大学学長鈴木守先生であり、知る人ぞ知る筋金入りの柔道マンであります。その鈴木守先生は5月5日の東京新聞の論壇で『柔道と武士道』—新しい日本の精神基盤に—と題して柔道を論じられていました。4月29日の全日本柔道選手権大会を観戦して、「武道」であると当時に「美道」としての柔道の神髄を見る思いがしたとのこと。また、教育者嘉納治五郎が完成させた柔道に武士道精神が息づいていること、等を述べられていました。

鈴木良地さんもそんな父親の柔道への熱き思いを受け継いでいるものと感じました。

今後も後輩に胸を貸して欲しいものと思います。



ラグビー部

黒石康暢
(81期)

ラグビー部OB会は、平成19年1月6日高崎ビューホテルにおいて新年総会を開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに今年度

事業予定が発表され承認された。また、任期満了に伴う役員改選があり、これも満場一致で承認された。この席上、内田新OB会長が、現役支援に尽力することを宣言するとともに、未だ衰えぬラグビーへの熱い想いを語り喝采を浴びた。3月1日の卒業式には、13名の卒業生に対してラグビー部OB会エンブレムを贈呈し、卒業とOB会への新入会を祝った。

内田新体制となった今年度のラグビー部OB会活動予定としては、従来の活動を踏襲しながら、これをさらに強化する方針である。特に現役支援のため年会費の徴収を呼びかけ現役への補助を増加させる。現役強化策として、夏合宿などに若手OBを派

遣しコーチングを依頼する。また、OB会活性化のためラグビー部OB会ホームページを復活させる予定である。

昨年花園予選ベスト4、今春県総体3位と現役は着実に力をつけているが、部員数の減少等厳しい状況であり、OB会として全力で現役支援を実行したいと考えている。



サッカー部

清水 清志
(81期)

サッカー部OB会は、現役諸君へのサポートを主たる目的とし、活動しています。今年は、サッカー部創部60周年となります。記念パーティーが11月17日(土)に開催することが決定しました。歴代顧問や学校関係者サッカー協会関係者を多数招待し、盛大に開催したいと考えています。

また群馬シニアリーグに参加する翠龍クラブ(前高OBとの合同チーム)、高崎市民リーグに参加するミドル翠巒、群馬リーグ3部に参加する翠巒クラブに各世代のOBが参加しています。60周年の記念の年に「優勝」を目指してがんばってほしいものです。

今年度も例年実施しています高高・前高サッカー交流戦が開催されます。前橋高校のホーム開催となります。8月第二土曜日の11日に開催予定です。

ぜひ現役およびOB諸君が活躍し、飛躍する年になればと考えています。今年もよろしくお祈りします。



バスケットボール部

橋爪 良真
(75期)

昨春、立見賢治前監督が安中高校校長に昇任され、OB会総会はその祝賀会を兼ねた盛大なものとなりました。とくに立見先生がご

指導された91期以降の若手OBが多数参加し、約50名で久々に盛り上がりました。明らかに中心が60~70期代に移ってきましたが、80期代の参加がやはり少なく今後の課題となっています。高々バスケットボール部は、この半世紀の間、常時安定して県ベスト4以上の戦績を残してきましたし、優勝回数も県内有数です。強豪校の常連であることにわれわれOBは誇りを持っております。一昨年の総会で現役への経済支援を増やすよとの諸先輩からの要望にお応えして、まだまだ不足かもしれませんが、昨年度は多少なりともお役に立つことができたのではないかと思います。今度はそろそろインターハイ出場への寄付金集めをさせていただきたいと願っています。



陸上競技部

波多野 重雄
(77期)

昨年度、懸念された陸上部OB会総会の会場ですが、それまでお世話になっていた司さんが突然店を閉められ、結果的に参加人数の増大を心配することなく、ホワイトインで行うことができました。反面、「毎年お世話になっている司さんではそろそろ取まりきれないのではという懸念さえ出た」などを書いてしまい、まさかそれを見られて、などと一瞬責任を感じてしまいました。また、今年度は、役員改選の年でしたが、谷さんにもう一期会長を引き受けていただくことになり、その他の役員もほとんどが留任した中、事務局会

<p>がんばれ 高高柔道部</p> <p>目指せ日本一</p> <p>祝H19関東大会</p> <p>個人・団体出場</p>	<p>高崎高校</p> <p>柔道部 OB会</p> <p>会長 関口 茂樹(63期)</p>
--	---

計に新たに石橋修君を迎え、ちよっぴりフレッシュした顔ぶれでいろいろ活動を行っていく予定です。その中の大きな柱の一つ、現役選手への支援につきましては、高校総体の応援者を募り、最終日に敷島競技場に向向くこととなりました。昨年、翠巒体育会HPともリンクしてHPを立ち上げましたので、詳細はそでご覧ください。



硬式野球部

吉井 剛
(80期)

平成18年度の野球部OB会は、7月に総会を開き、保護者会総会、翠巒体育総会、選手激励会と夏大会の応援、翠巒体育ゴルフコンペの参加など、例年通りの事業を継続して行いました。

今年の大きなニュースは、この4月から監督がOBの境原尚樹氏(81期)になったことです。久しぶりのOB監督ということで、OB会も歓迎会からはじまり、練習へのサポートなど精力的に監督を支えていこうと考えています。高高野球部スピリッツの復活を期待して、様々な面で現役選手を支援し、甲子園で『翠巒』を歌いたいと思います。OBの皆様のご協力をお願いします。また、しばらく行えなかった前高OBとの定期戦も復活し、OB同士の交流も深めていきたいと考えています。



硬式テニス部

浜名 和也
(84期)

硬式テニス部OB会は、昨年は雨のためテニス大会は中止となりましたが、夜の部では旧友たちと一年に一度のよき語らいができたことと思えます。本年度も昼間は上並榎テニスコートをお借りして、現役テニス部員を交えながらテニス大会を開催する予定です。また夜の部も開催予定ですので参加のほどよろしく願いいたします。期日は8月11日(土)で12:00~17:00までがテニス大会となっています。懇親会の会場及び時間はまだ未定ですが同日に行います。今年から幹事学年が83期になりました。北村くんを中心に活動してもらいます。よろしく願いいたします。



応援部

桜井 健一
(87期)

平成18年度の応援部OB会の活動では、秋山会長(74期)を中心に、翠巒祭前の合宿に、そして夏の甲子園予選大会では球場に出向き現役生を激励訪問し交流を深めるほか、団旗を支えるポール修繕費などの援助を行いました。また、昨年は恒例のゴルフコンペは行われませんでしたので、1月の新年総会と全体同窓会がOB会員の親交を温める機会でした。

恒例となった新年同窓会での校歌・応援歌のリーダーに加え、5月20日に催されました110周年記念祝賀会におきましても、応援歌のリーダーを務めさせて頂きました。その中で声高らかにスクラムを組んで『翠巒』を熱唱する諸先輩方の姿をみて応援部OBとしての誇りを感じると共に、高高応援部の伝統を守らなければならないと実感した次第です。88期以降のOBにも積極的に参加頂き、全体同窓会や翠巒体育会等での役目を担っていきたいと思っております。 押忍



剣道部

浦野 英孝
(77期)

剣道部OB会(剣友会)は、1月3日恒例の新年稽古会、新年総会・懇親会に始まります。新年稽古会では、OBだけではなく、歴代顧問の先生や他校のOBも多数参加し、現役剣道部生徒の指導にあたります。また、お互いに竹刀を交えることで、交遊を深めています。さらに、総会・懇親会を楽しみに、東京方面から参加されるOBもいます。今年は、新たに作成した写真入り会員名簿を配布しました。

新年稽古会だけでなく、毎年、春合宿や夏合宿にも多くのOBが参加し、現役生の指導にあたっていますが、若干若い世代のOBの参加が少ないのが残念です。今後、若い世代のOBにも積極的に参加してもらえようOB相互の交流や呼びかけを行っていきたく考えています。なお、会長である笠井秀昭先輩は、高崎市武道館で小学生の剣道指導を行うとともに、群馬県剣道連盟高崎支部副支部長として剣道界の発展に尽力しておられることもお知らせします。今後どうぞよろしく願いいたします。



水泳部

永尾 俊弘
(70期)

平成18年度の水泳部OB会の活動で特筆すべきは、県都市対抗水泳大会に今年度も高崎市代表として、30歳代に白井浩一(89期)、50歳代に私が参加し僅差で優勝を逃しましたが、高崎市の準優勝に大きく貢献できました。残念なことは、以前マスターズ大会等に、現役の競泳選手として多数の水泳部OBが参加しておりましたが、近年著しく減少してしまいました。また、昨年この項でも紹介しておりましたが、渋川高校、高崎経済大学で水泳選手として活躍された轟木先生が高々に赴任され、また水泳関係者が本校に赴任し現役の指導に力を発揮するものと期待しておりましたが、1年で転任してしまいました。以前、私の大学水泳部の後輩でもある清水明宏(高崎工業高校、群馬大学)が本校に3年間赴任したおりに、現役の競技力の著しい向上をみ、国体に参加(個人)できるまでになったことを思うと残念でなりません。



山岳部

吉井 章一
(78期)

山岳部が同好会から部として正式に認められてから50年あまりの歳月が経過しております。40周年の際には『山小舎』(山行の記録誌)を1冊の本として編集し発刊することができました。50周年にはまた何か記念に残るものを、と願っているのは私だけではないと思います。

また、部として認められた頃の大先輩が、現在でもOB会長として現役生への指導及び援助を続けていただいております。山岳部の伝統の継続に力を注いでいただくことに、本当に感動とともに畏敬の念を感じております。会長は今でも頻りに山に登っており、現役時代より現在のほうが盛んとのことですので頭の下がる思いです。

近年の現役生は国体への出場を果たすなど、新たな情熱を燃やしているようですので充実した活動が続けられること願っております。

2006年6月1日 ペットCT本格稼働 ガンの早期発見のためにペットドックを
真木会 真木病院 高崎PET総合画像診断センター
 高崎市筑縄町71-1 ☎027-361-8411
 真木 俊次(剣道部 55期) 永尾 俊弘(水泳部 70期) 真木 武志(バスケット部 72期)



卓球部

橋爪 洋介
(85期)

年間の活動としては、まず、現役生徒との夏合宿における「現役とOBの交流試合」と「暑気払い」があります。顧問の内田先生のご配慮をいただき、交流を深めながら、腕を磨いております。8月には「翠巒体育会ゴルフコンペ」に参加をいたしており、過去には二年連続団体優勝を果たすなど、毎年上位入賞をいたしております。ゴルフボールと卓球の玉の大きさに違和感がないことに関係ありか?! 10月には「卓球部ゴルフコンペ」を人知れず開催しており、夜には高橋浩生翠巒体育会長を招き、表彰式を兼ね親交を深めております。さらに、年度業事の締めくり、新たな年のスタートとして、「新年会」を羽鳥先輩の「割烹 魚仲」にて開催いたしております。同日の日中は「現役との交流試合」、夜には「新年会、懇親会」と行い、旧交を深めたり、近況報告などをいたしております。OB会としては今後とも、現役に対する支援活動、更なる会の発展に努めてまいります。



バレーボール部

武山 雄海
(102期)

今年度のバレー部OB会の活動は、一月三日に現役生との交流試合と夜は親睦会を開催しました。たくさんのOBの方々に集まって頂くことができ、盛大でとても充実した酒宴になりました。特に先輩のOBの方々と交流の少ない20代には、バレーに限らず人生の先輩としてもお話を頂き、貴重な経験になりました。

また翠巒クラブが六月に行われたクラブカップ大会群馬県予選会にて準優勝し、全国大会出場を果たすことができました。しかしここ数年チームの若返り化を図り選手の数は増えたものの、県外の学生が多く練習不足と大会での選手不足が大きな要因となり、七月の国体群馬県予選会と八月のクラブカップ全国大会では良い結果を残すことができませんでした。今後は定期的な練習をすると共に高校の顧問である塚本先生の協力のもと現役生と試合を行い、チーム力、精神力を向上させOBの輪を広げ繋げていきたいと思っております。



ソフトテニス部

田口 恵一
(74期)

平成18年度のOB会は8月12日に開催しました。昼は高々テニスコートにて、OBが43名集まり、現役と対抗戦を行う予定でしたが、去年に引き続き雨天のため試合は中止となりました。しかし、教室でOBと現役がミーティングを行い、OBが昔懐かしい話を現役に語りました。夜は長谷川ホテルにて、総会及び懇親会を25名で行いました。丸山博会長(68期)の挨拶で始まり、高中(高々)庭球部応援歌を最後に歌い、OBと現役にエールを送り、お開きとなりました。平成18年度、私個人的には高々PTA会長となり、高々の諸先生をはじめ各部活OBの方々にはお世話になりました。今年の入学式にはソフトテニス部の偉大な先輩であり、ウインブルドンテニスやデビスカップで大活躍した、「清水善造」さんのことを話させていただきました。清水善造さんのことに関しては丸山会長が管理しているホームページ「I LOVE SOFT

TENIS」に載っていますので、是非見てください。

《高崎高校運動部の活動報告》
先輩がんばってます!

軟式野球部

白田 雅則



我々軟式野球部は、現在3年生11名、2年生20名、1年生24名の計55名で活動しています。練習日はグラウンド使用の関係で土日月を除く週4日間練習をしています。軟式野球部は他の運動部と比べ厳しい練習ではありませんが、皆まじめに野球を楽しんで練習しています。そして秋の新人戦では、県ベスト4に入ることができました。軟式野球部は3年生が春の県高校総体で引退ということになっていて、夏の大会からは1・2年生の新チームでの戦いになるわけですが、現在の1年生2年生ともに非常によく頑張っているのこれからどんどん強くなっていくと思います。また、3年生は残りわずかですが最後の大会で精一杯頑張っていこうと思っているので応援よろしくお願いします。

應援部

駒井 源之丞



我々應援部は、今年で五十六代を数え、半世紀以上に渡り、高崎高校の伝統と誇りを受け継いで参りました。我々は高崎高校の勝利と栄光の為に應援する者としてより強くあることを目標として日々修練を積み、應援の高みを求め続けているのであります。また、各学校行事におきまして、生徒の中心に立ち高々生の団結を高め愛する母校の発展の為勇往邁進しております。天下の王道を闊歩いたします高々生の気風を守り、時代に流されることなく、確固たる信念の下に、高崎高校の栄光の歴史を受け継いで行く所存であります。今後とも、一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。伝統よ更に栄えあれ。

ラグビー部

井上 拓望



高々ラグビー部は、西澤先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、花園へ向けて日々練習に励んでいます。新人戦ではベスト8という結果に終わりましたが、総体、花園予選では優勝を目標に戦っていきます。現在、部員数が少ないですが、その人数の少なさを生かし、高々ラグビー部の良き伝統を受け継ぎ、最高のチームを全員でつくっていきます。顧問の先生方、OBの方々の支えに感謝し、期待に応える結果が残せるように頑張っていきます。

ガンバレ! ソフトテニス部

高崎高校 ソフトテニス部 OB会 会長 丸山 博(68期)



バスケットボール部 道下 一樹

私達バスケットボール部は、3年生8人、2年生10人、1年生13人の計31名で、戮力協心をモットーに長竹先生のご指導の下、インターハイ出場を目指して毎日厳しい練習に励んでいます。また、挨拶をしっかりとして用具を大切に扱うなど当たり前のことを当たり前に行うことで、人間として男として、高々生としてスポーツマンとしての心を磨いています。私達の最大の武器はチームワークです。短い練習時間の中で全員で声を出しながら、もう一つの武器であるディフェンスに磨きをかけています。最後まで絶対にあきらめずに戦いぬいて、群馬県優勝、インターハイを成し遂げたいと思います。応援よろしくをお願いします。



硬式野球部 平井 一馬

我々硬式野球部は、3年生26名、2年生15名、1年生23名の計64名で構成され、そして指導者の先生方が大須賀先生、毒島先生から境原先生、島田先生、村田先生に一新されました。

現在チームは試合の中での“流れ”をうまく掴めず、流を掴むことがいかに難しいかを知り、苦しい試合が続いています。そして今のままでは自分たちより力のあるチームに勝つことはできないけれど、日々の練習から一つ一つの練習に全力でぶつかり、全員が声を出し、自分たちのすべきことをすればそれも不可能ではないはずです。口で言うのは簡単ですが、これらを実行し甲子園を目指したいと思います。



山岳部 山野 恵太郎

我々山岳部は、自然に魅せられた、2年3人、1年3人の計6人で日々活動しています。練習内容は、ランニング、自然散策など観音山という恵まれた環境を最大限に生かしています。そして休日には、顧問の先生と共に、県内の山を中心に登山に行っています。日常生活では味わえない感動があるので、もっと多くの人に山の魅力を知って頂けたらと感じております。また、天気図、読図、料理など登山の際に必要な知識も、勉強しております。今年度の目標は、もっと様々な山に登ること、そして関東大会へ出場することですが、勝つことのみを目標にするのではなく、部員一人一人の感動や達成感も大切に、山を楽しみたいと思います。これからもよろしくお願い致します。



サッカー部 塚越 大朗

我々サッカー部は、現在3年生21名、2年生29名、1年生27名の計77名で構成され、赴任して3年目の笠原先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、また保護者会やOB会などに支えられて日々練習に励んでいます。ここ数年、県ベスト8の壁を破れぬ状態が続きましたが、今年は新人戦では県5位とベスト8の壁は破ることができました。今年こそは「強い高々サッカー部」復活を目指し、チーム内で互いに競い合い自らの向上をはかっています。常に一つの目標として「群馬県制覇」を掲げられており、決して手の届かない距離にあるわけではありません。日々精進し、今年こそは「群馬県制覇」を成し遂げたいと思いますので、応援よろしくをお願いします。



卓球部 山田 悠太

現在卓球部は、40人以上と非常に多い部員に対し、卓球台8台という環境のもと、効率の良い練習を目指し日々活動しています。練習は週6日の平日2時間、土曜3時間の体制で行っています。

部員の増加により、思うように練習できない時もしばしばありました。しかしその反面レギュラー争いも激しくなり、部員全員が意欲的に練習に取り組んでいます。

ここ数年定期戦において、前高に勝てない状況が続いています。しかし、今年こそは部内で高めた「チームの強さ」を最大限に発揮し、前高を破りたいと思います。高々卓球部は共に高め合い、常に「上」を視野に入れて日々努力を重ねていきます。



スキー部 横田 穂高

私達スキー部は、現在3年生2名で活動しています。部員不足で休部の危機に追い込まれていますが、昨年は高校生の3大全国大会であるインターハイ、国体、高校選抜の全てに出場し、高校選抜では13位に入るという素晴らしい成績を残すことができました。

また関東大会では2位入賞という快挙を成し遂げることができました。高崎高校はスキーをするにはあまり良い環境ではありませんが、その中でいかに効率良く練習をするかということが、スキー部についてまわる課題です。それなので今年は、陸上での練習を強化し、昨年以上の成績を出せるように頑張っていきたいと思っています。



剣道部 大澤 剛

我々剣道部は、顧問の戸塚先生と渡辺先生のご指導の下、日々稽古に励んでいます。

新チーム発足時は、3年5名、2年5名、計10名だった部員も、今年度1年生が13名と多数入部し、部員一同、より一層の活気で各々の目標を達成すべく頑張っています。

「不撓不屈」をスローガンに掲げ、日々の撓まぬ稽古と、OBの先輩方に指導していただけるという恵まれた環境の中、3年生は、もう短い間になりますが、上位入賞を目指して猛進していこうと思います。



陸上競技部 大井田 康生

私達陸上競技部は、顧問の田島先生、茂原先生のご指導の下、3年11名、2年8名、1年17名の計36名で日々練習に励んでいます。

部の中には全国で優勝することを目標にする者から自己記録更新を目指す者まで様々ですが、限られた時間の中で、部員一人一人が協力して集中することで、質の高い効率化された練習を行っています。

顧問の先生方、OBの方々、保護者の支えや、協力してくれる部員一人一人に感謝しながら、高校総体や学校対抗に向け、日々の練習に取り組んでいきたいと考えています。

御声援よろしくお願い致します。

ラグビー部OB(76期)

糸問屋 **土橋株式会社**

代表取締役社長 **土橋 英司**

高崎市問屋町1-6-11 TEL.027-362-0881

ラグビー部OB(77期)

株式会社多野商会

代表取締役 **橋谷 徹**

藤岡市中大塚1073-2 TEL.0274-23-3811

ラグビー部OB(77期)

株式会社秋山商店

取締役社長 **秋山 佳一郎**

安中市安中3-16-3 TEL.027-381-0213



柔道部

狩野 竜郎

私達柔道部は、3年生1名、2年生5名に加えて、新しく入部した1年生4名の計10名で日々稽古に汗を流しています。

限られた時間の中でいかに効率よく取り組めるかを常に念頭に置きながら、顧問である鳥居先生のご指導のもとで非常に密度の濃い稽古に取り組んできました。その中で私達は、柔道の技術や身体力だけでなく相手に立ちむかっていく姿勢や最後まで粘り強く諦めることのない精神も共に培ってきました。

これから訪れる総体やインターハイ予選においても、これらの心構えを忘れることなく、部員一同が一致団結し、自らを完全燃焼し尽くせるよう頑張りますので、応援よろしくをお願いします。



弓道部

中田 京

現在3年生4人、2年生20人、1年生16人という豊富な人材と素晴らしい指導の下、県下唯一の屋根無し道場で練習に励んでいます。でも今年度(3年引退後)に射場に屋根が付くとか付かないとか。我々は他校と比べ、圧倒的に時間が少ない、という欠点を常に抱えています。しかし我々高々生は、そこが腕の見せ所。先生の言葉を最大限吸収し、少ない時間の中で濃密な練習をしてこそ、最も高々生らしいやり方であると確信しております。なかなか結果に結びついていない、というのが現状ではありますが、関東大会、そしてゆくゆくは全国へとの目標と共に日々の稽古を積んでいます。伝統の継承、そして更なる発展を志す我々をあたたかい目で見守って下さい。



硬式テニス部

田口 智也

私達硬式テニス部は、毎年入部者が多いため、部員数も多く、それに対してコートが少ないながらも、効率の良い練習を心掛け、関東大会出場を目標として日々練習に励んでいます。

部員は、ほぼ軟式出身者、または別の部活出身ですが、日々の練習を生かし、県内の強い学校とも対等、またはそれ以上に戦うことができます。しかし、今年の個人戦は、シングルス、ダブルス共に何ペアも予選決勝で敗れてしまい、あと一歩という所で悔しい思いをしました。今後はチームとしての勝利を目標に、団結力をさらに高め、本戦で十分戦えるような実力をつけていきたいと思っています。



水泳部

伊能 知彦

現在水泳部は、3年生3人、2年生4人、1年生3人の計10人で個人種目、リレー共に関東大会出場を目指して活動しています。今年は冬の間、例年より浜川の温水プールでの練習の回数を増やし、夏に備え、筋力トレーニングで個々の能力の向上をさせてきました。これから、その練習の成果を問われるシーズンになってきますが、悔いの残らないよう精一杯頑張りたいと思います。

10人と少人数な部活ですが、その分結束力があり、お互いを高め合える素晴らしい部活になっています。これからも応援よろしくをお願いします。



ソフトテニス部

中川 雄司

高々ソフトテニス部は、顧問の井坂先生の指導の下、全国制覇を目標にして日々練習に励んでいます。練習では一人一人が考え工夫することで技術だけでなく、礼儀や態度においてもOBの方々から応援していただけるような選手を目指しています。昨年度は、高々が個人戦で1、2、3位を独占するという最高の形でのインターハイ出場を叶えました。しかし団体戦ではインターハイ出場を逃し、惜しい思いをした分、今年こそと団体戦への熱意を燃やしています。団体では群馬県の青年男子が、ドーハ五輪では篠原秀典選手などが活躍し、群馬県の強さを全国に示していますが、高校生の部では我ら高崎高校が群馬をリードし、その強さを全国に示せるように頑張りたいです。



バドミントン部

戸井田 康孝

我々バドミントン部は、1年11人、2年17人、3年19人の計47人で活動しています。しかし使えるコート数が少ないので、練習時間を二つに分けて練習を行っています。しかしこの限られた時間の中で全員が一生涯懸命練習に取り組んでいるので、昨秋の新人戦では団体戦で県ベスト8に入ることができました。しかし高々バドミントン部には経験者が1年生に一人いるだけなので、バドミントン経験者の多い東毛地区には技術面で大きく差をつけられてしまっているのが現状です。しかし決してあきらめることなく、より高みをこれからも日々努力を重ねていきたいと思っています。



バレーボール部

横山 真平

私達バレーボール部は、塚本先生、宮川先生の指導の下、限られた時間の中で部員がそれぞれ目的意識を持ち、工夫しながら日々練習に励んでいます。ここ数年、県優勝をあと一歩のところまで逃している今年こそ優勝したいと思っています。

これからの残り少ない時間の中では、日々の練習の質というのが今まで以上に重要になってくるので、一つ一つのプレーを大事にして練習していきたいと思っています。そして最後まで諦めないで必ず優勝します。応援よろしくをお願いします。



空手道部

金井 良介

我々空手道部は、3年生2名、2年生9名、1年生10名の計21名で練習に励んでいます。数年前は、全国大会にも出場しましたが、ここ1、2年は思うような成績が残せていません。今年は経験豊富な新入生も数名入り、来たる高校総体に向けて部全体の士気が高まっています。指導者の不在や、狭い練習場所といった問題もありますが、部員一人一人が与えられた環境で日々自分を磨いています。今年度は、『捲土重来』をモットーに一つでも多く勝ちを重ねていきたいと思っています。応援よろしくをお願いします。



高崎高校 陸上部 OB会 会長 谷 一行(70期)

陸上部OB会ホームページ開設しました。
<http://sports.geocities.jp/takatakarikujouob/index.html>

平成18年度 運動部活動状況

陸上競技部

関東高校大会			
400mH	中島清純	予選 組3位	
3000mSC	土屋貴弘	予選 組7位	
走高跳	松田貴之	決勝敗退	
群馬県陸上競技選手権大会			
400mH	中島清純	決勝7位	
3000mSC	土屋貴弘	決勝5位	
棒高跳	梅山伸太郎	決勝6位	
(上記選手が関東陸上競技選手権大会出場)			
県高校新人大会			
1500m	関 祐輔	決勝2位	
5000m	土屋貴弘	決勝1位	
5000m	神宮 聡	決勝2位	
110mH	加舎敬太郎	決勝2位	
3000mSC	土屋貴弘	決勝1位	
4×100mR	小林・加舎・黒澤・齋藤	決勝3位	
(上記選手が関東選抜新人陸上選手権大会出場)			
関東高校選抜新人			
3000mSC	土屋貴弘	決勝2位	
群馬県高校駅伝			
		5位	(関東駅伝出場)
関東高校駅伝			
		41位	
新人駅伝競走大会			
		4位	

バスケットボール部

群馬県高等学校バスケットボール選手権大会			
兼第59回全国高等学校総合体育大会予選会			
2回戦	102 - 30	藤 工	
3回戦	66 - 38	西邑楽	
4回戦	76 - 40	前 東	
準々決	99 - 77	新 島	
準決勝	46 - 70	育 英	3位
国民体育大会関東ブロック大会			
(少年男子の部)			
1回戦	86 - 98	東 京	
※高崎高校からは籠島大佳が選抜選手として出場			
全国高等学校選抜優勝大会2次予選			
準々決	75 - 78	樹 徳	5位
西毛地区新人大会			
2回戦	70 - 26	農 二	
3回戦	91 - 43	富 岡	
準決勝	119 - 36	高 工	
決 勝	98 - 60	高 商	優勝
新人大会			
2回戦	70 - 55	前 西	
3回戦	73 - 33	前 東	
4回戦	80 - 48	桐 生	
準々決	58 - 53	前 商	
決勝リーグ	63 - 55	樹 徳	
	85 - 66	太 田	
	71 - 81	育 英	2位
(関東高校新人出場)			
第17回関東高等学校バスケットボール新人大会			
1回戦	65 - 113	市立船橋	

バレーボール部

関東大会			
1回戦	0 - 2	東 金(千葉)	
インターハイ県予選			
4回戦	2 - 0	館商工	
準々決	2 - 0	桐 生	
準決勝	0 - 2	伊勢崎	3位

西毛地区大会			
2回戦	2 - 0	榛 名	
準決勝	2 - 0	高 工	
決 勝	0 - 2	高 北	2位
新人大会			
2回戦	2 - 1	渋 川	
3回戦	2 - 0	館商工	
準々決	2 - 0	前 商	
準決勝	0 - 2	桐 商	3位
全国選抜県予選			
4回戦	2 - 1	渋 川	
準々決	2 - 0	藤 工	
準決勝	0 - 2	伊勢崎	3位

ソフトテニス部

関東大会			
個人	富所・神宮組	ベスト32	
	梅村・西田組	2回戦	
インターハイ予選			
個人	富所・神宮組	優勝	
	梅村・西田組	準優勝	
	伊藤・千田組	3位	
団体	2回戦 3 - 0	中 央	
	3回戦 2 - 0	伊 市	
	4回戦 0 - 2	農 二	ベスト8
ハイスクールジャパンカップ			
	梅村・西田組	予選リーグ0勝2敗	
インターハイ			
個人	富所・神宮組	2回戦	
	梅村・西田組	2回戦	
	伊藤・千田組	2回戦	
1年生大会			
	岡田・剣持組	ベスト16	
新人大会			
個人	秋山・金井組	ベスト16	
団体	2回戦 3 - 0	渋 工	
	3回戦 2 - 1	高 北	
	4回戦 0 - 2	沼 田	ベスト8
全国選抜県予選			
1回戦	3 - 0	渋 川	
2回戦	2 - 1	前 橋	
決 勝	0 - 3	沼 田	
	0 - 3	農 二	
	1 - 2	前 商	4位
ハイスクールジャパンカップ県予選			
	小堺・金井組	ベスト8	

卓球部

新人大会 団体			
		ベスト16	
高崎市会長杯卓球大会			
	高校生の部	浦上竜太郎	優勝

柔道部

関東大会			
団体出場			
インターハイ県予選			
団体		3位	
個人	73kg級	佐藤貴浩	優勝
		(インターハイ出場)	
	66kg級	井上貴仁	準優勝
	90kg級	吉田将治	3位
新人大会			
団体		3位	
全国高校選手権大会県予選			
		ベスト8	
県学年別大会			
個人	三年の部	狩野竜郎	3位
	二年の部	池田貴紀	優勝
	一年の部	井上登志晴	90kg級優勝

サッカー部

インターハイ予選			
2回戦	3 - 0	吉 井	
3回戦	1 - 0	高 北	
4回戦	2 - 1	桐 一	
準々決	0 - 1	伊 商	ベスト8
選手権 決勝トーナメント			
1回戦	3 - 0	藤 工	
準々決	0 - 4	前 商	ベスト8
県新人リーグ			
第1節	2 - 1	常 磐	
第2節	0 - 1	桐 一	
第3節	1 - 2	前 東	
第4節	2 - 0	伊 商	
第5節	3 - 1	西邑楽	
第6節	1 - 0	前 橋	
第7節	2 - 0	桐 生	2位

水泳部

春季新人大会			
50m自	南 亮	5位	
関東高校県予選			
200m背	◎小林郁也	4位	
200m個メ	◎小林郁也	4位	
200mバタ	◎塚越祐太	6位	
100mバタ	塚越祐太	8位	
400m R	柴崎・塚越・清水・南	8位	
800m R	南・小林・西野・塚越	6位	
上記6種目に入賞、◎印で関東高校標準記録を突破しましたので関東大会に出場。			
学校対抗		8位	
関東高校水泳大会			
200m背	小林郁也	(2:18.62)	
200m個メ	小林郁也	(2:22.37)	
200mバタ	塚越祐太	(2:20.17)	
県高校総体			
200m背	小林郁也	4位	
200m個メ	小林郁也	6位	
200mバタ	塚越祐太	7位	
200mバタ	塚越祐太	6位	
1500m自	西野晃史	6位	
400mメR	小林・伊能・塚越・南	8位	
400m R	塚越・小林・南・柴崎	7位	
800m R	小林・西野・南・塚越	7位	
新人大会			
100m背	清水文也	4位	
50mバタ	清水文也	3位	
100m平	伊能知彦	6位	
200m平	伊能知彦	4位	
200m自	西野晃史	6位	
400m自	西野晃史	3位	
400mメR	西野・伊能・清水・神尾	3位	
200m R	清水・伊能・神尾・西野	3位	
400m R	清水・伊能・神尾・西野	3位	
ラグビー部			
一年生大会 合同チームの部			
(高工・育英との合同チームで参加)			
1回戦	7 - 7	(前工・富岡)	(抽選勝)
決 勝	27 - 17	(伊勢崎・興陽・関学)	優勝
全国高校大会県予選			
準々決	43 - 10	樹 徳	
準決勝	5 - 47	農 二	ベスト4
新人大会			
準々決	19 - 35	樹 徳	ベスト8
7人制大会			
2回戦	17 - 17	樹 徳	(抽選負)

剣道部

インターハイ県予選
 1回戦 2-1 前 工
 2回戦 1-2 太 商
 県新人戦
 1回戦 3-1 富 岡
 2回戦 1-3 太 商

硬式テニス部

関東大会
 個人ダブルス 新開・河野組 出場
 インターハイ県予選
 団体 ベスト8
 個人シングルス 新開康平 ベスト8
 河野広樹 ベスト16
 県新人大会
 団体 ベスト8
 個人シングルス 鈴木洋介 ベスト16

硬式野球部

全国高校野球選手権大会県予選
 2回戦 8-0 下仁田
 3回戦 3-1 高 東
 4回戦 2-0 太 田
 準々決 0-1 前 工 ベスト8
 秋季関東大会県予選
 2回戦 3-5 前 高
 春季関東大会県予選
 2回戦 0-9 関学附

空手道部

インターハイ予選
 個人形 金井・高瀬 予選敗退
 個人組手 金井・新井・鎌田 1回戦敗退
 団体組手 1回戦 (不戦勝) 共愛
 2回戦 0-5 沼田
 1・2年生大会
 個人形 金井・高瀬 予選敗退
 個人組手 高瀬 利根実戦 2-0 (1回戦)
 高経附戦 0-8 (2回戦)
 佐藤 沼 田戦 0-7 (1回戦)
 矢島 館商工戦 2-0 (1回戦)
 中 央戦 0-8 (2回戦)
 三浦 商大附戦 1-8 (1回戦)
 新人大会
 個人形 金井・高瀬 予選敗退
 個人組手 高瀬 伊勢崎戦 0-8 (1回戦)
 佐野 高 工戦 0-8 (1回戦)
 団体組手 伊 商戦 2-3 (1回戦)

バドミントン部

インターハイ予選
 2回戦 3-0 伊 工
 3回戦 0-3 西邑染
 新人戦
 シングルス 黒澤・箱田組
 5回戦 (ベスト32)
 ダブルス 鈴木・箱田組
 5回戦 (ベスト32)
 団体 3回戦 3-2 前 商
 準々決 0-3 太 商
 県高校生大会
 石井 ベスト8
 木村 ベスト16

スキー・スケート部

県高校総体
 大回転 横田穂高 4位
 回 転 横田穂高 3位
 関東大会
 大回転 横田穂高 2位
 全国大会
 大回転 横田穂高 13位

弓道部

インターハイ予選 予選落ち

軟式野球部

全国高校軟式野球大会予選
 1回戦 不戦勝 長野原
 準々決 0-13 高 商
 新人大会
 1回戦 5-4 館 林
 準々決 5-4 太 田
 準決勝 1-6 前 橋

第42回高校総体 成績一覧(平成19年) 総合順位 5位

陸上競技部

200m 小林 幹 決勝 4位
 110mH 加舎敬太郎 決勝 3位
 3000mSC 土屋貴弘 決勝 1位
 4 × 100mR 黒澤・加舎・小林・齋藤 決勝 5位
 走高跳 松田貴之 決勝 3位
 やり投 齋藤駿介 決勝 5位
 やり投 黒澤太郎 決勝 6位
 八種競技 黒澤太郎 決勝 1位
 (上記選手が関東大会出場) 総合 5位

バスケットボール部

1回戦 78-43 沼 田
 2回戦 101-34 高 工
 3回戦 113-25 高経附
 準々決 95-77 高 商
 準決勝 62-75 樹 徳 3位

バレーボール部

4回戦 2-0 勢多農
 準々決 1-2 高 北 ベスト8

ソフトテニス部

個人 折田・樋口組、須藤・佐藤組 9位
 (関東大会出場)
 団体 2回戦 3-0 前 商
 3回戦 2-0 吉 井
 4回戦 1-2 高 商 ベスト8

卓球部

シングルス 浦上竜太郎 ベスト64
 団体 9位

ラグビー部

1回戦 22-7 前 東
 準々決 17-12 樹 徳
 準決勝 0-45 県 央
 シード決定戦 22-10 太 田 ベスト4
 ※シード決定戦とは全国大会県予選(10月~11月実施予定)における第3シード決定戦。

サッカー部

2回戦 8-1 桐 西
 3回戦 3-1 太 工
 4回戦 2-1 常 磐
 準々決 0-5 桐 一 ベスト8

柔道部

個人 池田貴紀 優勝
 狩野竜郎 準優勝
 団体 7位
 (いずれも関東大会出場)

剣道部

1回戦 5-0 桐 商
 2回戦 1-1 沼 田 代表戦

硬式テニス部

団体 2回戦 3-0 農 二
 3回戦 1-2 館 林 ベスト16

空手道部

個人形 金井・高瀬 予選敗退
 団体形 1回戦 対伊勢崎 敗退
 個人組手 小池・松本・高瀬 1回戦敗退
 佐藤 前 東戦 4-3 (1回戦)
 館商工戦 3-2 (2回戦)
 伊 商戦 0-8 (3回戦)
 団体組手 1回戦 4-1 洪 工
 2回戦 3-2 伊勢崎
 3回戦 0-5 高 工
 ベスト8

山岳部

9位

弓道部

予選落ち

バドミントン部

個人
 ダブルス
 間野・大石組、箱田・鈴木組
 ベスト64
 戸井田・木村組 ベスト16
 シングルス
 箱田、木村 ベスト64
 団体 2回戦 1-2 富 実

軟式野球部

1回戦 4-3 育 英
 準々決 3-7 高 商

翠巒体育会役員名簿

(平成 19. 6. 26)

役職	氏名	期	運動部名	電話
会副	高橋 浩生	78	バレーボール	
	笠井 秀昭	56	剣道	
会副	志田 登	82	柔道	
	谷 一行	70	陸上	
会副	内田 美樹	77	ラグビー	
	田口 恵一	74	ソフトテニス	
会副	秋山 賢治	74	応援	
	清野 哲雄	74	サッカー	
会副	清水 正郎	75	野球	
	北村 真行	85	硬式テニス	
会副	松本 基志	77	山岳	
	堤 康高	71	卓球	
会副	橋爪 良真	75	バスケット	
	永尾 俊弘	70	水泳	
会副	吉井 章一	78	山岳	
	川手 義昭	62	野球	
会副	後藤 次一	68	陸上	
	阿久澤 茂	69	サッカー	
会副	國峯 善次郎	50	サッカー	
	岩田 武雄	53	バスケット	
会副	山口 正敏	58	卓球	
	鳥居 吉二	73	柔道	
会副	岩丸 高明	82	バレーボール	
	富田 和弘	85	応援	
会副	茂原 賢三	89	陸上	
	坂本 弘	87	バレーボール	
会副	長谷川 裕二	93	剣道	
	小池 政一	77	剣道	
会副	浦野 英孝	77	柔道	
	滝野 修司	86	柔道	
会副	関口 茂樹	63	柔道	
	庭田 登志男	68	柔道	
会副	寺沢 保夫	83	柔道	
	坂本 正樹	71	陸上	
会副	木村 隆一	74	ラグビー	
	福島 早年	77	ラグビー	
会副	飯島 康暢	81	水泳	
	黒石 康暢	81	水泳	
会副	新谷 恭一	54	水泳	
	斎藤 全賢	75	卓球	
会副	白井 浩一	89	卓球	
	深沢 昇	57	卓球	
会副	角倉 信久	69	卓球	
	橋爪 洋之	85	ソフトテニス	
会副	木村 和久	72	ソフトテニス	
	石田 克彦	75	ソフトテニス	
会副	浦野 伸生	78	ソフトテニス	
	鈴木 正弘	80	応援	
会副	藤井 賢一	81	サッカー	
	國峯 賢一	74	サッカー	
会副	清水 清志	81	サッカー	
	安藤 均	86	野球	
会副	小林 正喜	77	野球	
	赤沢 威	84	野球	
会副	清水 一好	85	野球	
	榊原 弘之	79	バスケット	
会副	佐藤 英敏	81	バスケット	
	斎藤 英敏	83	硬式テニス	
会副	長谷川 泰三	83	硬式テニス	
	松本 潔志	84	硬式テニス	
会副	長井 友之	74	山岳	
	吉井 章一	78	山岳	
編集委員	岩丸 高明	82	バレーボール	
	小池 政一	77	剣道	
編集委員	鳥居 吉二	73	剣道	
	波多野 重雄	77	陸上	
編集委員	大田部 功	85	ラグビー	
	伊藤 祐司	75	水泳	
編集委員	堤 康高	71	卓球	

役職	氏名	期	運動部名	電話
編集委員	木村 晴彦	87	ソフトテニス	
	藤井 正弘	81	応援	
	清水 清志	81	サッカー	
	吉井 剛	80	野球	
	橋爪 良真	75	バスケット	
	浜名 和也	84	硬式テニス	
	吉井 章一	78	山岳	

学校側顧問	
校長	藤倉 新一
副校長	松原 真介
教頭	増田 芳之
運動部長	長竹 潤
バレーボール	塚本 泰弘・宮川 淳吾
剣道	戸塚 泰聖・渡辺 正一・萩原 弘和
柔道	鳥居 吉二・木村 高己・関口 博士
陸上	田島 正徳・茂原 賢三・坂爪 誠
ラグビー	西澤 南・大野 俊彦・中野 憲一・新井 功
水泳	橋本 晃一・前田 敏明・新井 功
卓球	内田 均・小林 正好
ソフトテニス	井坂 奨・柴崎 浩明・川崎 洋一
応援	川崎 洋一・茂原 賢三
サッカー	笠原 恵太・坂本 直之・新井 悟・曾根 秀朗
野球	境原 尚樹・島田 学・村田 英之
バスケット	長竹 潤・篠原 浩一・坂本 直之
硬式テニス	中村 健一・岡田 準・諏訪 賢一
山岳	手島 直樹・齊藤 敬一・矢島 宏三・大野 俊彦
スキー・スケート	村田 英之・手島 直樹
弓道	間々田 功・前田 敏明
空手	上原 弘充・矢島 宏三・工藤 正宏
軟式野球	篠原 浩一・澤田 徳彦・関根 正弘
バドミントン	加藤 俊介・三浦 昭久・宮崎 秀明

OB会長名簿

運動部名	氏名	期	電話
バレーボール	菊地 俊二	52	
剣道	笠井 秀昭	56	
柔道	関口 茂樹	63	
陸上	谷 一行	70	
ラグビー	内田 美樹	77	
水泳	永尾 俊弘	70	
卓球	橋爪 洋介	85	
ソフトテニス	丸山 博	68	
応援	秋山 賢治	74	
サッカー	清野 哲雄	74	
野球	川手 義昭	62	
バスケット	橋爪 良真	75	
硬式テニス	小池 俊明	80	
山岳	清水 正爾	55	

第26号翠巒体育会会報編集会議(平成19年4月19日・翠巒会館)



編集後記
 [小池・剣道・77期] 高橋会長を始め、事務局、特に編集局橋爪先輩、藤井君のお骨折りで、翠巒体育第26号が完成した。今号も紙面の端々に体育会OBの高々に対する情熱が散りばめられている。翠巒体育会に関係してきた先輩方は、すでに何十年も現役生徒を応援し続けている。私自身でさえ、驚くことに卒業して30年、今年は同窓会幹事期である。我々が高々のグラウンドや体育館で汗を流したのはたったの3年。なのにその後何十年も関係が続いていく。高校時代の3年間というもの、人生の中でよほど印象強く脳裏に刻まれているからなのだろう。また、「高々」には、応援しなくなってしまう魅力があるからなのだろう。今号が、現役諸君や若手OBに、高々での部活動は、あなた方の人生にとって、意味ある大きな存在なのです、と伝える一助になればと願い、編集後記とする。